

ホルムアルデヒド放散等級区分

F☆☆☆☆

居室内で無制限に使用できます

国土交通大臣認定

認定番号	区分
NM-8585	不燃材料
QM-9816	準不燃材料
RM-9364	難燃材料

塗料塗装

(一社)日本塗料工業会

水性1液透湿型微小骨材入りシリコン樹脂塗料

# ロック透湿コート (つや消し)

ラジカル  
制御タイプ

- ◆ 砂壁調等のリフレッシュ塗替
- ◆ 住宅基礎・擁壁・ブロック塀の保護
- ◆ 軒天の中性化、膨れ抑制



**ROCK PAINT**

# ロック透湿コート

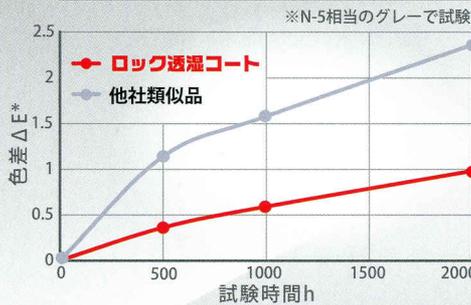
水性1液透湿型  
微小骨材入り  
シリコン樹脂塗料

ラジカル  
制御タイプ

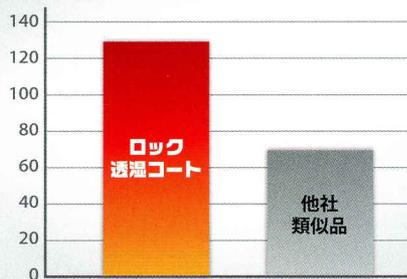
## 砂壁調等のリフレッシュ、住宅基礎・擁壁 ブロック塀の保護、建物軒天の塗装に最適

- 1 高耐候性** > 独自のシリコン樹脂とラジカルコントロール技術により従来にはない耐候性を発揮します。また、防藻・防カビ材の配合により発生を抑制します。
- 2 透湿性** > 高い透湿性により塗膜の膨れ、剥がれを抑制します。
- 3 追従性** > 塗膜が微弾性の為、下地のヘアクラックに追従性があります。

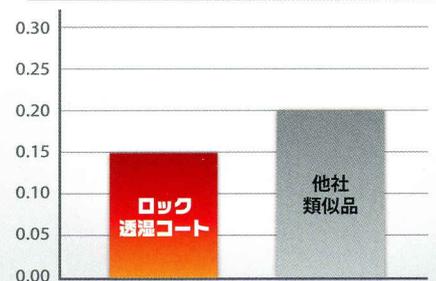
促進耐候性 (キセノンウェザーメータ)



水蒸気透過度  $g/m^2$  (社内試験法による)



透水性  $ml/24h$  (社内試験法による)



適応下地 コンクリート、モルタル等

色相 各色(中濃彩色は対応不可) ▶



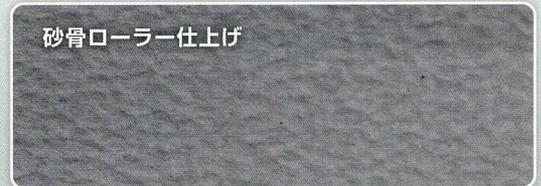
※日塗工対応可能色

仕上げテクスチャー

ウールローラー仕上げ



砂骨ローラー仕上げ

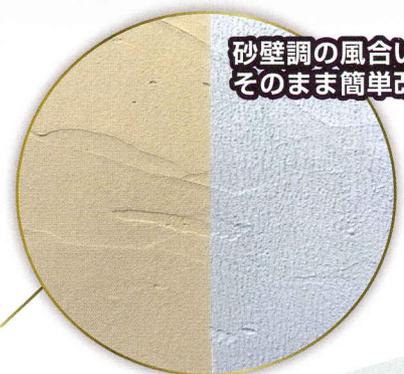


## 砂壁調等のリフレッシュに

- > 砂壁調等の**高意匠性**を損なわずに仕上げる事が可能です。
- > **透湿機能**により、塗膜の膨れ、剥がれを抑制します。
- > シリコン系塗膜のため、**高い耐久性**を発揮します。



砂壁調の風合い  
そのまま簡単改修



## 住宅基礎・擁壁・ブロック塀の保護に

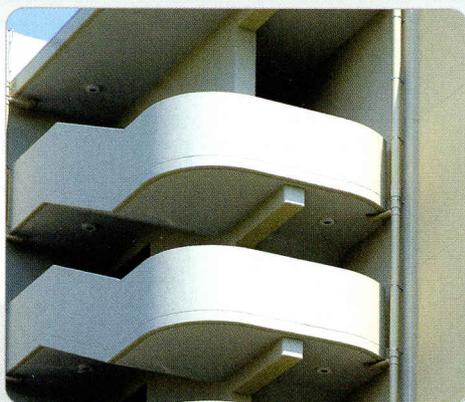
- > 住宅基礎、擁壁等の**中性化を抑制**しコンクリートを**保護**します。
- > **透湿性**がある為、塗膜の膨れ、剥がれを抑制します。
- > **防水性**が高く、外部からの水の浸入を抑制します。
- > 微弾性塗膜で**下地追従性**があり厚付仕様が可能です。



## 軒天の中性化、膨れ抑制に

- > 改修塗装時の下塗り工程を省略する事ができます。<sup>※1</sup>
- > **透湿**に優れ、塗膜の膨れ、剥がれを抑制します。
- > 旧塗膜剥離箇所等の**不陸を調整**します。
- > シリコン系塗膜の為、長期に亘り**高い耐久性**を発揮します。

※1 旧塗膜が活膜の場合に限ります。塗膜劣化が進行し吸込みが著しい場合、もしくは素地が露出している場合には、ロックカチオンシーラーマルチⅢ等、適切な下塗りを必ずご使用ください。





基礎中木・擁壁部・ブロック塀（上塗りAパターン：ウールローラー／上塗りBパターン：砂骨ローラー）

工程	使用塗料	希釈剤 / 塗装方法と希釈割合 (%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね可能時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜でハガレ部分、フクレ部分等はワイヤーブラシ、皮スキ等のケレン具を用いて完全に除去する。また、エフロレッセンス、チョーキング部分、汚れ等は高圧水洗浄等で除去し、乾燥した清浄面とする。				
下塗り	ロックカチオンシーラーマルチⅢ※1	水 / ハケ・ローラー：0% (通常不要)	1	0.07~0.13	3時間以上
上塗り/Aパターン	ロック透湿コート	水 / ハケ・ウールローラー：0~5%	2	0.20~0.25	2時間以上
上塗り/Bパターン	ロック透湿コート	水 / 砂骨ローラー：0% (通常不要)	1~2※2	0.6~1.0	2時間以上

※1 下塗りはロックカチオンシーラーマルチの他、ハイパーシーラーアクアやハイパーシーラーエゴも使用可能です。  
 ※2 砂骨ローラーでの塗装時に下地が十分隠れない場合は2回塗りとしてください。

軒天部（ウールローラー）

工程	使用塗料	希釈剤 / 塗装方法と希釈割合 (%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね可能時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜でハガレ部分、フクレ部分等はワイヤーブラシ、皮スキ等のケレン具を用いて完全に除去する。また、エフロレッセンス、チョーキング部分、汚れ等は高圧水洗浄等で除去し、乾燥した清浄面とする。				
上塗り	ロック透湿コート※3	水 / ハケ・ローラー：0~5%	2	0.20~0.25	2時間以上

・旧塗膜が有り、且つ劣化が軽微で、素地に強固に付着しているのみ、下塗りを省略する事が可能です。  
 ※3 下塗りが必要な場合はロックカチオンシーラーマルチの他、ハイパーシーラーアクアやハイパーシーラーエゴも使用可能です。

砂壁調等仕上げ面（ウールローラー）

工程	使用塗料	希釈剤 / 塗装方法と希釈割合 (%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね可能時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜でハガレ部分、フクレ部分等はワイヤーブラシ、皮スキ等のケレン具を用いて完全に除去する。また、エフロレッセンス、チョーキング部分、汚れ等は高圧水洗浄等で除去し、乾燥した清浄面とする。				
下塗り	ロックカチオンシーラーマルチⅢ※4	水 / ハケ・ローラー：0% (通常不要)	1	0.07~0.13	3時間以上
上塗り	ロック透湿コート	水 / ハケ・ローラー：0~5%	2	0.20~0.25	2時間以上

※4 下塗りはロックカチオンシーラーマルチの他、ハイパーシーラーアクアやハイパーシーラーエゴも使用可能です。  
 ※防火認定仕様につきましては、最寄りの各営業所にお問い合わせください。

施工上の要点および注意事項

- 蓄熱しやすい建材を使用した高断熱外装に塗装する場合、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境等複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜のふくれ、はがれが生じることがあります。
- 旧塗膜でハガレ部分が広範囲かつ多岐ふくれている箇所がある場合は、旧塗膜を全面除去をご検討ください。
- 砂骨ローラーで塗装する際は必ず希釈剤で行ってください。
- 希釈するとたれやすくなります。
- 本製品は骨材入りの高粘度塗料のため、ローラー目を出さずにフラットに仕上げる塗料ではありません。
- 塗装の塗り継ぎは5~10分以内を目安に実施してください。
- 時間が経過し過ぎると継ぎ目が目立ちやすくなります。
- 塗料はミキサー等でよくかき混ぜ、均一にしてから使用して下さい。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を行ってください。その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- 色彩によっては色味が残ることがあります。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- 塗装方法により多少色相が異なる場合がありますので、入り隅のハケ・ローラー場合はできるだけ奥までローラー塗装してください。
- ローラー塗の場合、ローラー目は一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なるって見ることがあります。
- 補修部分が目立つことがありますので、補修塗りの場合は同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- 塗る前のゴミ、かき、こけ、油分、結露などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- 塗装後24時間以上5℃以下にならない場所で使用してください。また湿度が85%以上の場合は塗装を避けてください。
- 絶えず結露が発生するような場所、用途では避けてください。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測されるときは降雨、降雪を避けてください。また降雨直後等は下地表面に湿気を含みやすいため、十分に乾燥させてから施工してください。(含水率10%以下)
- エルメシオンパテの外壁での使用は避けてください。
- シーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良、収縮われなどを起こしたり、表面が汚れたりすることがあります。状況によっては、シーリング材用プライマー「ロックノンタックプライマー-S」を塗装してください。塗膜の汚染・剥離、はがれ、割れの低減が図れますが、シーリング材の種類によっては汚れ、付着不良が発生する場合がありますので、試し塗りのことをお奨めします。なお、ノンリードタイプのシーリング材「ロックノンタックプライマー-S」は塗装しないでください。
- 外壁の塗装について、塗料臭気が室内に入らないように換気装置などを停止し、開口部などの養生を行ってください。
- 塗膜面の取り合い等で可塑剤が多く含まれる建材（塩ビ鋼板、ラミネート鋼板、プラスチック、ゴムパッキン、塩ビクロスなど）への直接的な塗装は塗膜が軟化することがあり避けてください。また、これらの素材に塗膜が接触・付着しないように注意してください。
- 新しいコンクリート、モルタルなどのアルカリ質素材は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分に乾燥させてください。
- 屋外セメント系系地に段差・果穴などがある場合は、セメントファイバーを用いて不陸調整を行ってください。
- 下地、旧塗膜が脆弱な場合、また素材が強アルカリ性であることが予想できる場合は、溶剤型のシーラーを使用してください。また改修塗装で溶剤型のシーラーを使用した場合、旧塗膜の種類によっては溶剤の影響により、ふくれ、ちぢみなどが発生することがありますので、試し塗りで本塗装を行ってください。
- 吸い込みの著しい部材については、標準塗付量より多く塗ることがあります。
- シーラー塗装は、ぬれ感が出るまで、を目安に塗装してください。
- シーラー塗装、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間を守ってください。
- 下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- 金属類は錆が発生するおそれがあります。
- 比較的緻密な素材である押出成形板やGRC板へ塗装する場合は、コロックシーラー、ハイパーシーラーエゴを下塗りとして使用してください。
- ハケ・ローラーなどの塗装用具は水性用を使用してください。
- 使用後のハケなどの用具、手に付いた塗料はできるだけ早く水で洗い落してください。乾くと落としにくくなります。
- 乾燥した塗膜に付着した汚れはシンナーなどで拭かず、中性洗剤で洗浄してください。
- 改修塗装の場合、脆弱な旧塗膜、汚れ、チョーキングなどはディスクタンダー、皮スキ、ワイヤーブラシなどで除去し、高圧水洗浄を行った後、24時間以上乾燥させてください。(気温20℃、湿度65%の場合)
- 改修塗装の場合、素地の種類や下地処理方法によって付着不良やリフティング等の塗膜不良となる場合があります。あらかじめ適切な処理を行い、試し塗りをすることをお奨めします。
- 旧塗膜が弾性系の塗膜（弾性リシン、弾性スタッコ）やアクリル樹脂エナメルなどの場合、すだれふくれが発生することがあります。そのまま塗装すると、ふくれが拡大することがありますので、ふくれ箇所は完全に除去してください。
- 下地の種類、状態によっては、表面磨りが必要な場合があります。
- 仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、標準塗付量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。
- 各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合塗膜不良となる場合があります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- このカタログに記載されている下塗り塗料などの詳細な使用方法については、それぞれのカタログをご参照ください。
- この仕様書はすべての工程においてホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆を使用しています。F☆☆☆☆以外の材料（被塗物、素地を含む）を使用した場合、各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合、F☆☆☆☆でなくなる場合がありますので注意してください。
- カタログに記載されていない素地及び塗装方法、工事で施工する場合、塗膜欠陥を起すことがありますので、使用前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- 防藻、防カビ効果は繁殖を抑制するため、既に発生している被塗物には、下地処理として除去および防藻・防カビ処理剤などで殺菌処理した後、塗装してください。
- フタを開けたままにしておくと皮張りを起こしますので、出来るだけ早く使い切るか、ホリエチレンシート等で密閉保管してください。
- 塗装後24時間以内に降雨、結露があった場合、白化やシミが残る場合があります。また、低温時や高湿度、通風が悪い場合も白化やシミになる場合があります。
- 微細な骨材を配合しておりますので、エアレス塗装は避けてください。
- 乾燥条件によっては塗膜表面が粘着性を感じることがあります。時間の経過とともになくなります。
- 防火認定仕様については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ウールローラーでの1回塗り仕上げは行わないでください。下地が透けたり、厚塗り部分の中うみたり、割れが生じる場合があります。
- モルタル・コンクリート素地面の脆弱な層や、エフロレッセンス、レイタンスなどは十分に取り除いてください。また、素地が極端に粗い場合や凹凸の激しい場合、及び果穴などは状況に応じて補修し、適切な養生を行ってください。
- 本製品の発売時に実用化されていた技術では予見が困難な塗膜の異常現象、又は、それが原因で不具合が生じる可能性があります。
- 漏水が見られる場合は、予め原因となっている箇所への防水処理を行った後に施工してください。
- 笠木、天端など長時間水の滞留する箇所では塗膜の白化、ふくれなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 調色には必ずロックトーンカララント 7000（ベースの2%以内）を使用してください。

安全衛生上及び取扱上の注意

- 【製品の危険・有害性】
  - 危険性のほとんどない製品ですが、目や呼吸器に入るとは避けてください。
- 【救急処置】
  - 目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
  - 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
  - 気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
  - 皮膚に付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化のあるときは医師の診察を受けてください。
- 【取扱注意事項】
  - 塗装中、乾燥中ともに換気をよくしてください。
  - 取扱いは、できる限り皮膚にふれないようにし、必要に応じて、保護メガネ、保護めがね、保護マスクを着用してください。
  - 取扱後は、手洗い及びうがいを十分にを行い、作業衣等に付着した汚れをよく落とすしてください。
  - 子どもは直射日光を避け5℃以上40℃以下の安全でかつよく乾いた手で届かない場所に保管してください。
  - 容器は中身を使い切った後から破棄してください。
  - 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。
- 【施工後の安全性について】
  - 本製品群は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの際は、施工主に対して安全性に十分に注意を払うようにご指導ください。
  - 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ベンキ塗たてであるなどの立看板等を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにご配慮願います。
  - 取扱の際は製品容器の注意書き、および安全データシート(SDS)をよく読み、注意事項を厳守してください。

ロックペイント株式会社

URL : <https://www.rockpaint.co.jp>

東京営業部 / 〒136-0076 / 東京都江東区南砂2丁目37番2号 TEL (03)3640-6000 FAX (03)3640-9000  
 大阪営業部 / 〒555-0033 / 大阪市西淀川区姫島3丁目1番47号 TEL (06)6473-1650 FAX (06)6473-1000

当社の所在地詳細につきましてはQRコードからご確認ください。



● 本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。また記載内容については、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。

販売店